

ふくしま 再生 短信

比曾地区菅野啓一邸居久根除染プロジェクト探訪

✧ 居久根よ 永遠に ✧

2016年7月2日・3日の両日、記者は飯館村比曾地区の菅野啓一邸を訪ねた。居久根除染プロジェクトの成果を取材し、あわせて両日実施される実験小屋撤去作業に参加するためである。折しも啓一さんは重機を駆使して帰村に向けての自宅周辺の整地など環境整備作業に余念がなかった。

いみじくも「居久根は農家の退職金」と言ったのは啓一さんである。居久根は代々受け継がれていく農家の守り神である。

今回の居久根の除染は啓一さんとふくしま再生の会の協働作業として6月22日～6月26日の5日間にわたって集中的に行われた。小原壮二チームリーダーのものとべ32人日のメンバーが参加、屋内測定器



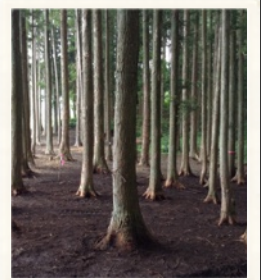
裏庭からプロジェクトを終えた居久根を望む



設置に
始まり
居久根

除染と一連の測定作業を実施。作業機械を使う作業は専ら啓一さんが担い（写真左）手作業部分を参

加者が実施した。ちなみにイグネの土壌調査などの準備は2015年11月にスタートし継続してきた。枝



打ちを終え丁寧に汚染土を

撤去した後の木々の姿は1本1本が大切な宝そのものである（写真上）。

居久根は「屋敷林」とも言われ、屋敷の周辺に植えられた樹木で福島・岩手・宮城・山形などの地域特有の呼称である。冬暖かく夏涼しい快適な環境をつくり建築材料として貴重な資産でもある。居久根は環境省の除染対象として想定されていない。

ハウスの花作りで世界からの集客を目指す啓一さんは、「都会の人たちに思い思いの花作りができる場を提供

したい、宿泊できる地域おこしの場も創りたい」と帰村に向けての夢を語る。

（文責&撮影・若林一平）

実験小屋

菅野啓一さん宅の居久根を望む裏庭で2015年11月7日再生の会の第二次実験小屋基礎工事が行われ（短信10号）当月中には測定を開始した。小屋の解体が完

了した2016年7月3日まで7ヶ月強フルに測定が続いた。解体作業は杉板壁4層（4面で16枚の壁）とその中に埋めた土壁3



層（4面で12枚の土壁）を順に剥がす形で進んだ（写真左）。土壁の掻き出しは手作業である（写真中）。壁の解体を終え啓一さんを囲んで記念の1枚（写真右）。